

沿革

- 1907(明40)年 野付牛村(現北見市)に北海道庁立地方農事試験場北見分場として設置
 1910(明43)年 北海道農事試験場北見支場に改称
 1959(昭34)年 北見市から現在地(訓子府町)に移転完了
 1964(昭39)年 北海道立北見農業試験場に改称
 1998(平10)年 根創農試から馬鈴しょ育種部門が移転
 2007(平19)年 創立100周年
 2010(平22)年 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構に移行、グループ制を導入
 2026(令8)年 新庁舎を建設

圃場図

総面積 155.77 ha
 うち試験圃場 78.30 ha
 建物敷地 11.86 ha
 山林ほか 65.61 ha

北

土壌 多湿黒ボク土

施設群

施設群
庁舎

前庭

固定圃 E3
1,3,4 畑作物試験輪作圃
E2 牧草試験圃
E1

温室群

固定圃5, 6

施肥管理及び
病害虫試験圃

A1

A2

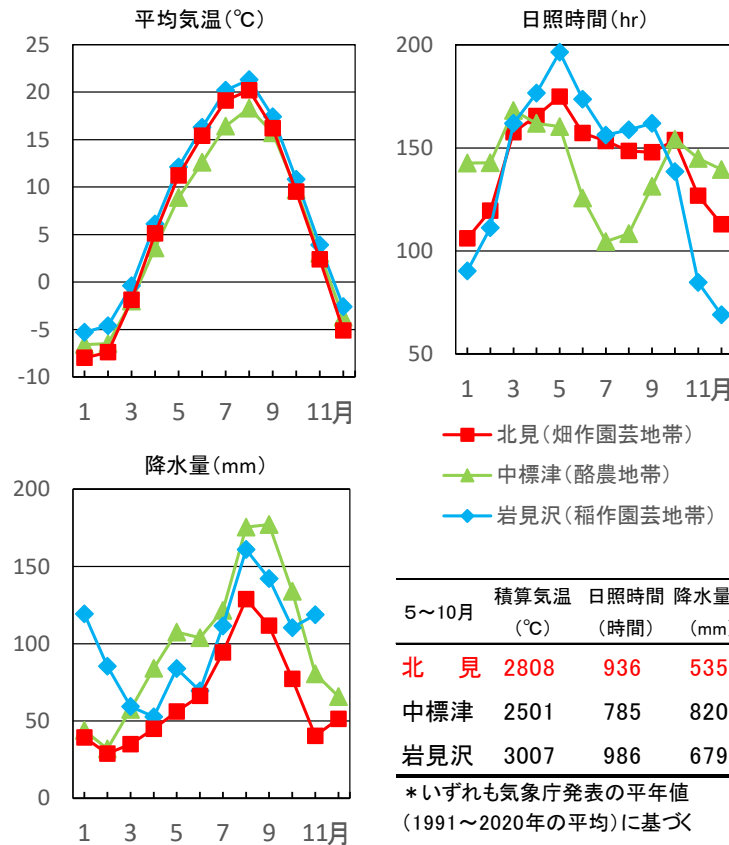
公宅

正門

林地

土壌 褐色低地土

北見の気象



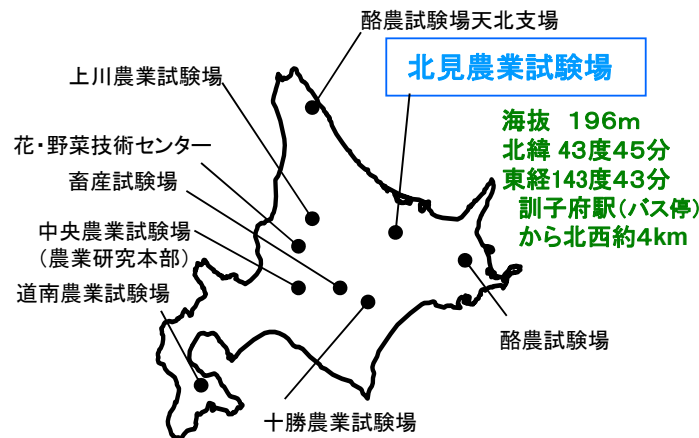
見学のしおり



豊かな自然環境と調和した
オホーツク農業をめざして



北見農業試験場の位置



主な研究施設

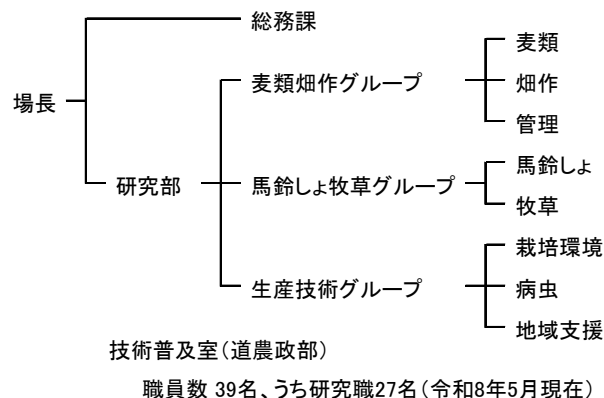
バイオ共同実験室、病虫温室、牧草温室、小麦品質検定実験室、小麦緑体春化施設、小麦生育温室、てん菜分析室、てん菜育苗施設、園芸調査室兼温室、たまねぎ貯蔵庫、昆虫飼育網室、種子貯蔵庫、馬鈴しょ育種施設



地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
 農業研究本部 北見農業試験場

〒099-1496 北海道常呂郡訓子府町字弥生52番地
 Tel.0157-47-2146 Fax.0157-47-2774
<http://www.hro.or.jp/list/agricultural/research/kitami/index.html>

組 織



主な育成品種と 開発した新技術

■最近の育成品種

- ・春まき小麦「はるきらり」(H19)
- ・秋まき小麦「きたほなみR」(R6)、
「北見95号」(R2)、
「つるさち」(H24)
- ・馬鈴しょ「北育33号」(R8)、
「ゆめいころ」(R3)、「さらゆき」(H31)、
「ハロームーン」(H30)、「コナユタカ」(H26)、
「オホーツクチップ」(H16)、「スノーマーチ」(H16)
- ・チモシー「ゆめみるひ」(R6)、「センリョク」(R2)、「センブウ」(H30)、
「なつぴりか」(H26)、「なつちから」(H22)
- ・たまねぎ「すらりっぷ」(H28)、「ゆめせんか」(H24)



■最近の新技術・試験成果

- ・春まき小麦新品種「春紬」(R8)
- ・てんさい新品種「ハニー」「カーベ3K503K」(R8)
- ・テンサイ褐斑病抵抗性極強品種における褐斑病の省力防除法 (R6)
- ・トマト野生種栽培によるジャガイモシロシストセンチュウ密度低減技術の最適化と利用法の拡大 (R4)
- ・インファロー散布を活用したばれいしょ害虫の防除法 (R4)
- ・植物成長調整剤を用いた春まき小麦「春よ恋」の高品質多収栽培技術 (R3)
- ・移植たまねぎに対する肥効調節型肥料を用いた分施省略技術 (R3)
- ・早期出荷向けたたまねぎの収穫前進技術 (R2)
- ・土壌凍結深制御技術の適用拡大と技術体系化 (R1)

各グループの主な研究内容

麦類畑作グループ

麦 類

北海道に適する高品質安定多収な秋まきおよび春まき小麦新品種の育成を行っています。赤かび病、雪腐病、コムギ縞萎縮病などの病害や穂発芽などの障害に強く、うどん、パン、中華めん、菓子に適する品種の開発を目標としています。また、他機関で育成されたビール醸造用の二条大麦有望系統について、オホーツク地域における適応性の評価を行っています。

畑 作

てん菜および大豆、小豆、菜豆について、オホーツク地域に適する品種系統の選定や品種育成のための特性検定を行っています。



管 理

圃場作業計画、試験圃場や緑肥圃場の栽培管理、農作業機の整備などを行っています。

馬鈴しょ牧草グループ

馬鈴しょ

北海道に適する高品質安定多収な馬鈴しょ新品種の育成を行っています。ジャガイモシロシストセンチュウ類抵抗性をはじめ、Yモザイク病、そうか病、疫病などに対し抵抗性を持つてん粉原料用およびポテトチップスなどの加工用の品種開発を目標としています。また、他機関の育成有望系統や海外導入品種のオホーツク地域における適応性検定を行っています。



生産技術グループ

栽培環境

オホーツク地方の主要な畑作物、野菜、飼料作物を対象に、高品質な農産物を持続的に生産するため、環境への影響を考慮した土壌・肥料管理技術を開発しています。また、新しい肥料や土壌改良資材の実用化、インフラ整備のための土壌調査にも取り組んでいます。



病 虫

オホーツク地域で栽培されている主要な畑作物や野菜に被害を及ぼす重要病害虫について発生生態を調べ、被害を予測し、防止・低減する防除技術の開発を行っています。また、病害虫の発生予察調査、突発および新発生病害虫診断、新農薬の実用化試験など、病害虫対策の基本となる試験を行っています。

地域支援

農試等が開発した新技術の導入や既存技術の実証・応用により、地域の課題解決に取り組んでいます。また、技術普及室駐在の普及職員とともに、オホーツク総合振興局、網走農業改良普及センターと一体となり、地域農業技術支援会議を通じて地域農業を支援しています。

牧 草

北海道の安定多収なチモシー新品種の育成を行っています。採草用では極早生～晩生の熟期で栄養価、永続性、耐病性など、放牧用では季節生産性、再生力などに優れる品種の開発を目標としています。また、牧草とサイレージ用とうもろこしについて、他機関で育成された有望系統や海外導入品種のオホーツク地域における適応性検定を行っています。